

報道関係者 各位

田辺市立美術館

特別展『熊谷守一 書と絵と肖像』の開催について

田辺市立美術館では4月22日（土）から7月2日（日）まで下記の通り特別展『熊谷守一 書と絵と肖像』を開催します。

記

1. 会期 4月22日（土）～7月2日（日）
2. 開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
3. 休館日 毎週月曜日
4. 観覧料 600円（480円）
※（ ）内は20名以上の団体割引料金です。
学生及び18歳未満の方は無料です。
その他観覧料の減額や免除の制度もありますのでお問い合わせ下さい。

5. 展覧会内容

洋画家、熊谷守一（1880～1977）の没後40年を機に、その多彩な芸術表現を振り返ります。油彩画だけでなく書や日本画の作品についても重点をおいて紹介し、多くの人を魅了したその人間像を、藤森武撮影の肖像写真によってお伝えします。

- ・記念講演会を開催します。

「熊谷守一先生を撮影した3年間」

藤森武（写真家）

5月6日（土）午後2時より当館研修室（観覧料のみ必要・手話通訳もつきます）

- ・レクチャーコンサートを開催します。

演奏：松田淳一（ヴァイオリン）・松田淳子（ピアノ）

解説：三谷渉（当館学芸員）

6月10日（土）午後2時より当館研修室（観覧料のみ必要）

- ・展示解説会を開催します。

5月20日（土）・6月24日（土） いずれも午後2時より当館学芸員が行います。

お問い合わせ先

田辺市立美術館（担当：学芸員 三谷渉）

〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町 24-43

Tel.0739-24-3770



豆に 1958年 個人蔵 蟻

「いのち」を見つめる

熊谷守一

書と絵と肖像



撮影：藤森武

2017年 4月22日 (土) ▶ 7月2日 (日)

主催／田辺市立美術館

休館日 毎週月曜日
開館時間 午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
観覧料 600円(480円)
※()内は20名以上の団体割引料金
学生及び18歳未満は無料

特別協力／柳ヶ瀬画廊
企画協力／晴耕雨読

■記念講演会 5月6日(土) 午後2時より当館研修室
(観覧料のみ必要・手話通訳もつきます)
藤森武(写真家)「熊谷守一先生を撮影した3年間」

■レクチャーコンサート 6月10日(土) 午後2時より当館研修室(観覧料のみ必要)
「熊谷守一と画家・音楽家との交流」
演奏：松田淳一(vn.)・松田淳子(pf.) 解説：三谷涉(当館学芸員)

■展示解説会
5月20日(土)・6月24日(土) 午後2時より ※いずれも当館学芸員が行います
「国際博物館の日」記念

田辺市立美術館

TANABE CITY MUSEUM of ART
〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43 TEL 0739-24-3770

2017年

4月22日(土) ▶ 7月2日(日)



撮影：藤森武

熊谷守一(1880-1977)の作品は、その類ない「モリカズ様式」とも呼ばれる造形によって、今日も多くの人々を魅了し続けています。熊谷が97年の生涯を閉じてからちょうど40年となる今年、改めてその多彩な表現活動と人物の魅力を振り返りたいと思います。

熊谷は1880(明治13)年に現在の岐阜県中津川市付知町に生まれました。父の熊谷孫六郎は初代岐阜市長などを務めた政治家、実業家で、裕福な家庭に育ちますが、異母兄弟との複雑な人間関係のなかで幼少期を過ごし、やがて画家になることを希望して、東京美術学校(現在の東京藝術大学)に学びます。在学中に父の死によって大きな負債を背負いますが、動じることなく自分の道を歩み、首席で卒業、官展への入選と、画家としての地歩を固めてゆきます。しかし、極度の寡作のために生活は困難を極め、貧窮のなかで、生まれた5人のこどものうち3人には先立たれてしまいます。

そうした生活の中で、熊谷は身の周りの自然を見つめ続け、自身の内面での対話を重ね、やがて切りつめたシンプルな輪郭線によって対象を捉えた、色面の構成による独特な表現を確立します。そして小さくとも輝く生命が凝縮された、象徴詩のような作品を生み出してゆきました。熊谷はそのような油彩画だけでなく、書と日本画も好んで描いています。そこにある大らかなで豪胆な線の表現は、熊谷の手柄をなによりよく伝えてくれるものです。

また最晩年の熊谷の姿を写した貴重な写真が藤森武(1942-)によって残されています。藤森は足しげく自宅を訪れて熊谷と心を通わせ、写真嫌いだった熊谷から撮影の許しを得ました。そして写された熊谷の人間像を伝えるポートレートも今回の展覧会では特別に展示します。

書と絵と肖像によって、「いのち」を見つめ続けた、熊谷守一の芸術と人をお伝えしたいと思います。



《椿》1966年

個人蔵



①



②



④



③

①《白猫》1962年
個人蔵

②《蒼蠅》1976年
個人蔵

③《月夜》1967年
熊谷守一
つげち記念館蔵

④《にわとり》
1977年
個人蔵

「いのち」を見つめる

熊谷守一 書と絵と肖像



《夏水仙と蝶》

個人蔵

交通案内

「JR 紀伊田辺駅」・「JR 白浜駅」
「南紀白浜空港」から明光バス
「南和歌山医療センター前」
または「新庄病院前」下車、
徒歩5分。

田辺市立美術館

TANABE CITY MUSEUM of ART
〒666-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43 TEL.0739-24-5770



田辺市立美術館分館 熊野古道なかへち美術館では下記のとおり展覧会を開催いたしますので、報道方よろしくお願いたします。

記

- 1 名称 『没後 20 年 脇村義太郎のコレクション』
- 2 会期 平成 29 年 4 月 22 日（土）～ 7 月 2 日（日）
- 3 主催 田辺市立美術館
- 4 特別協力 公益財団法人 脇村奨学会
- 5 休館日 毎週月曜日
- 6 展覧会内容 脇村義太郎氏（1900-1997）は田辺市名誉市民であった父市太郎氏の長男として現在の田辺市に生まれ、旧制田辺中学、旧制第三高等学校、東京帝国大学経済学部を卒業後、同大学助教授、教授などを歴任。その間、船員中央労働委員会会長などをはじめとする多くの政府関係機関の役職を務め、戦後復興期における経済関係のブレーンとして活躍した一方、教育・芸術分野でも財団法人（現、公益財団法人）脇村奨学会の役員として人材育成に努め、神奈川県立近代美術館や東京都美術館をはじめとする多くの美術館の運営に関与。また、多くの文人や画家と交流を深め、自身も多くの作品を収集するなど美術に対する造詣の深さを示しました。本展覧会では、美術研究家・愛好者として類まれなる見識や造詣の深さを発揮した義太郎氏が生前収集したコレクションを、紀州をテーマに描かれた作品や作家たちとの交友がうかがえる作品を中心に、脇村家の山林業ゆかりの地である熊野古道なかへち美術館で紹介します。
- 6 出品点数 【展示室】 24 点
- 7 料金 400 円（320 円）
（ ）内は団体割引料金
☆学生及び 18 歳未満の方は無料です。
- 8 その他 下記の日程で展示解説会を行います。
 - ・平成 29 年 5 月 27 日（土） 午後 2 時～
※「国際博物館の日」記念として実施
 - ・平成 29 年 6 月 17 日（土） 午後 2 時～

お問い合わせ先

〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町 2-4-3
田辺市立美術館 担当：辰巳 充
TEL 0739-24-3770 FAX 0739-24-3771
e-mail:tatsumi.m@city.tanabe.wakayama.jp



前田青都《熊野詣》1964(昭和39)年頃 田辺市立美術館寄託

没後20年

脇村義太郎の コレクション

Wakimura Yoshitaro Collection

2017年 4月22日(土)~7月2日(日)

◎ 展示解説会

5月27日(土) *「国際博物館の日」記念として実施
6月17日(土) いずれも午後2時より当館学芸員が行います。

〈会場〉 熊野古道なかへち美術館
〈開館時間〉 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
〈休館日〉 毎週月曜日
〈観覧料〉 400円(320円) ()内は20名以上の団体割引料金
*学生及び18歳未満の方々は無料です。
〈主催〉 田辺市立美術館
〈特別協力〉 公益財団法人 脇村奨学会



田辺市立美術館分館
熊野古道なかへち美術館
KUMANOKODO, NAKAHECHI MUSEUM of ART
〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露 891
TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393

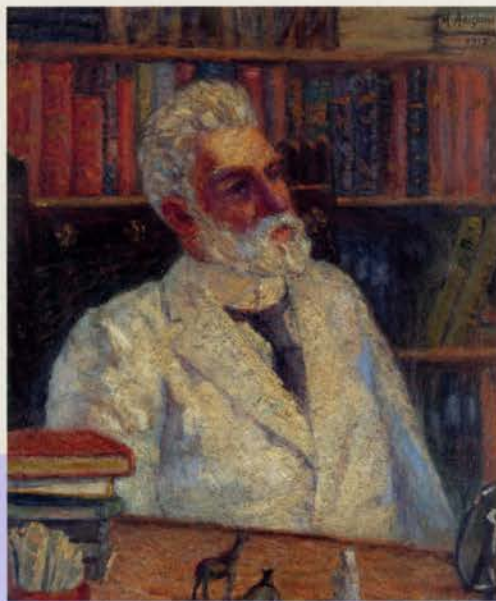


巻頭



巻末

《南紀巡覧図 下巻》江戸時代後期 個人蔵



有島生馬《ケーベル博士》1912(明治45/大正元年) 個人蔵



村上華岳《洞窟老子》1937(昭和12年) 田辺市立美術館



畠田溪仙《那智山瀑布図》田辺市立美術館 個人蔵

脇村義太郎(1900~1997)は田辺市名誉市民であった父・市太郎の長男として現在の田辺市に生まれ、旧制田辺中学、旧制第三高等学校、東京帝国大学経済学部を卒業後、同大学助教授、教授などを歴任。その間、船員中央労働委員会会長などをはじめとする多くの政府関係機関の役職を務め、戦後復興期における経済関係のプレーンとして活躍しました。

一方、戦後神奈川県逗子に転居し、疎開していた家族とともにこの地に定住、戦前から湘南に住んでいた文人や画家たちと交流し、多くの日本画家、洋画家、学者たちとも深い関わりを持ちます。このことは自身の絵画に対する審美眼を磨くことに繋がっただけでなく、元々経済学者として培った洞察力や探究心とも相まって、美術作品に対する類まれなる造詣の深さや見識を発揮し、神奈川県立近代美術館や東京都美術館をはじめとする多くの美術館の運営に関与することにもなりました。

義太郎は郷里への思いも深く、父・市太郎とともに財団法人(現、公益財団法人)脇村奨学会を設立して役員に就任、南紀出身者の人材育成に努め、郷里で所蔵作品の展覧会を開催するなど文化活動の支援も積極的に行ないました。

本展覧会では、彼が生前収集したコレクションを、紀州をテーマに描かれた作品や、交友してきた作家たちとの関係がうかがえる作品を中心に、脇村家の山林業ゆかりの地である熊野古道なかへち美術館で紹介いたします。

脇村義太郎のコレクション

没後20年 Wakimura Yoshitaro Collection

2017年4月22日(土)~7月2日(日)



《交通案内》

龍神バスで「JR紀伊田辺駅」から「本宮大社前」行に乗車。「なかへち美術館」下車。
明光バス「快速熊野古道号」に乗車。「南紀白浜空港」・「JR紀伊田辺駅」・「JR新宮駅」から「なかへち美術館」下車。



田辺市立美術館分館
熊野古道なかへち美術館
KUMANOKODO NAKAHECHI MUSEUM OF ART
〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露 891
TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393